

平成29年度 長野県下諏訪向陽高等学校学校評価表(最終報告)

50 下諏訪向陽高等学校

■ 学校教育目標

- ① 高い進学目標を掲げ、一般入試に対応できる学力を身につけながら、個に応じた進路実現ができる学校を目指す。
- ② 学習活動と課外活動をともに重視した高校生活と、それを支える基本的な生活習慣と豊かな人間性の確立を目指す。
(文武両道と生活指導の充実)
- ③ 地域との交流・連携事業を積極的に推進し、地域と協働する高校を目指す。

■ 長期的教育目標

- ① 豊かな人間性を養い、知・徳・体の調和のとれた成長と主体的に社会に参画できる生徒の育成を目指す。
- ② 自主・自発的な学習態度を育成し、学力の充実とともに高い進路目標の実現を目指す。
- ③ 特別活動を充実し、文武両道による心身の練磨を目指す。
- ④ 地域に開かれ、地域と連携しながら、地域から愛され信頼される学校を目指す。

■ 本年度の重点目標

A:十分 B:おおむねよい C:不十分

- ① 生徒一人一人の個性と能力を伸ばし、主体的に動ける自立した人間を育てる。(キャリア教育)

評価	A	I	授業・家庭学習を大切にさせ、基礎的な学力の充実・発展を図ることができたか。
	A	II	主体的に自己決定ができる力を養い、自己の進路目標の明確化と進路実現を図れるよう指導できたか。
	A	III	公共心を育て、思いやりと責任のある行動を大切にさせることができたか。

- ② いじめや体罰のない安心安全な学校づくりに努める。

評価	A	I	個人面接指導やアンケートを活用し、継続的に生徒の状況を丁寧に把握することができたか。
	A	II	高い人権感覚を持ち、厳しくも支え合える同僚性を基に、互いを律し、体罰を防ぐことができたか。
	A	III	問題が発生した場合は全職員で情報を共有し、早急な対応にあたることができたか。

- ③ 活力のある学校・特色ある学校づくりに努める。

評価	A	I	生徒の実態を踏まえ、多様な学力や進路に対応できる教材や教授法を研究できたか。
	A	II	生徒の自主活動を積極的に支援し、適切な助言・指導を行うことができたか。

- ④ 家庭・地域との連携を図るとともに開かれた学校づくりに努める。

評価	A	I	生徒が企画する地域連携事業を支援することができたか。
	A	II	実践した教育活動の報告を通して、学校評議員の学校関係者評価や外部評価を受けたか。
	A	III	保護者や地域住民を対象とした公開授業を積極的に実施したか。
	A	IV	協力依頼のある地域連携事業をとおして地域との交流を深めることができたか。
	A	V	家庭との一層の連携とPTA活動の充実を図ることができたか。

① 生徒一人一人の個性と能力を伸長し、主体的に動ける自立した人間を育てる。(キャリア教育)

I 授業・家庭学習を大切にさせ、基礎的な学力の充実・発展を図ることができたか。

	実施した具体的取り組み	成果と今後の課題・改善策・向上策	評価
○	【1学年】漢字・古文、英単語、計算力それぞれの小テストをSHRに取り入れ、基礎学力の充実をはかった。	意欲的に最後まで取り組む生徒と、そうではない生徒の差が出てしまった。	B
○	【理科】基礎的な内容を、書き込み式の教材を使用したり、課題で繰り返し出題をこつこつで定着を図った。	多くの生徒が教材、課題に取り組んだ。考える力の基礎力をつける方法を検討していきたい。	B
○	【2学年】週3回SHRで漢字・古典単語・英単語の小テストを実施した。	基礎学力向上のため、意欲的に取り組む生徒の数は昨年より増えている。更にそのような生徒を増やすために指導を継続していきたい。	B
○	【3学年】生活記録や学習計画を書き、計画的に学習を進め、家庭学習を習慣化させた。 6月から補習を開始。	・個人差が大きい。 ・向陽祭以前の補習は生徒が参加しにくく課題。	B

II 主体的に自己決定ができる力を養い、自己の進路目標の明確化と進路実現を図れるよう指導できたか。

	実施した具体的取り組み	成果と今後の課題・改善策・向上策	評価
○	【芸術】作品制作・発表を通じ個々の指導ができた。	今後も継続して指導していきたい。	B
○	【1学年】個人面接指導期間を中心に、個々の進路目標の確認と実現のための道筋を共に考えた。	進路目標が明確でない生徒が多く、もう少し自分を見つめる時間が必要であると考ええる。	B
○	【2学年】6月に進路研修を実施。 進路希望調査や面談を通し、目標の明確化を図った。 進路通信を週1回発行し、啓発活動に努めた。	自分なりの目標を明確化し、その実現のために努力している生徒が相当数いる。今後、それが学校全体に広がるよう目指したい。	B
○	【3学年】「志望理由書マスターノート」を利用し進路調べを進めた。個人面談や保護者懇談会を丁寧に行い進路を明確化した。	多様な進路に対応できるような教員の知識が必要。	B

III 公共心を育て、思いやりと責任のある行動を大切にさせることができたか。

	実施した具体的取り組み	成果と今後の課題・改善策・向上策	評価
○	【芸術】作品制作・展示発表を通して多くの作品を大切にしよう指導することができた。	今後も継続して指導していきたい。	B
○	【生徒会】様々な地域との協力活動(ガーデンプロジェクト、ハロウィン、三角八丁、啓発活動を行うことで心が育った。	今年度と同様に行いたいと考えている。	A
○	【1学年】入学時よりしばらくの期間は各教室に花の鉢を置き、水やりなどに努めさせた。	教室が殺風景でなかったことも効果があったのか、全体的に「いじめ」に発展するような問題はなかった。	B
○	【2学年】授業・HR・学年集会で指導を継続的に行った。	係を中心に適切な指導ができた。生徒は総じて落ち着いた生活ができているようである。	B
○	【3学年】クラブ、委員会、向陽祭の活動や日々の清掃などを通して思いやり責任感が育った。		A
○	【保健厚生】5月に「薬物乱用防止」についての講演会を実施し、生徒たちに「薬物乱用の有害性や違法性、防犯や情報への適切な対処や行動」について考えさせる機会をつくり、「薬物乱用の危険性、薬物乱用防止の手立てや対策」について、正しい知識と理解を持たせた。	事後アンケートでは、「友達が薬物をやっていたら止めさせる」「友達に誘われても断る」などの感想が多く見られ、生徒たちに「薬物の危険性」を理解させるとともに、「様々な人間関係の中で適切な意思決定や行動選択をするここの大切さ」について考える機会を持たせることができた。	B

② いじめや体罰のない安心安全な学校づくりに努める。

I 個人面接指導やアンケートを活用し、継続的に生徒の状況を丁寧に把握することができたか。

	実施した具体的取り組み	成果と今後の課題・改善策・向上策	評価
○	【生徒会】いじめのない学校づくりとして、各クラスに色紙を渡し一人一人が各自の宣言をし掲示した。	来年度はいじめに関する啓発活動を行いたい。	A
○	【1学年】各担任が、面談を通して個々の生徒の学校生活の状況把握を行ってきた。	学校生活を「とても楽しい」と感じている生徒が多い。	A
○	【生活指導】問題発生時には、事実確認等の対応を迅速に行うとともに、知り得た情報を全職員で共有し対応できた。一斉メール等の活用で不審者情報を提供することで生徒への注意喚起ができた。	今後はSNS等による問題が心配される。またこの問題は表面化しにくいことから、どのように対応していくか考えていきたい。	B
○	【2学年】年2回のアンケートの実施と普段からの情報収集に心掛けた。	問題となる事案もなく1年を終えることができた。引き続きアンテナを高く保ち、問題の早期発見に努めたい。	B
○	【3学年】個人面談や「いじめに関するアンケート」を活用し、生徒の状況を把握した。	把握しきれない部分もあると感じる。	B

II 高い人権感覚を持ち、厳しくも支え合える同僚性を基に、互いを律し、体罰を防ぐことができたか。

	実施した具体的取り組み	成果と今後の課題・改善策・向上策	評価
○	【3学年】粘り強く説く指導を心掛け、威圧的指導にならないよう徹底した。	高い人権感覚を持っているか疑問に思う指導もある。	A

III 問題が発生した場合は全職員で情報を共有し、早急な対応にあたることができたか。

	実施した具体的取り組み	成果と今後の課題・改善策・向上策	評価
○	【生活指導】面談やアンケートを行い、日頃の生徒の様子等に注意を払い、心配な事案に対しては、担任や養護教諭、係と連携を図り、迅速に対応できた。	日頃の職員の呼びかけ等の効果もあり、問題行動の件数も減少した。生徒の安全に学校生活を送れるようにさらに情報配信をしていきたい。	B
○	【3学年】本人や保護者からの訴えや、教員側で気付けば早急に対応するよう心掛けた。	アンテナを高く保つ努力が必要。	A

③ 活力のある学校・特色ある学校づくりに努める。

I 生徒の実態を踏まえ、多様な学力や進路に対応できる教材や教授法を研究できたか。

	実施した具体的取り組み	成果と今後の課題・改善策・向上策	評価
○	【芸術】作品展示発表を継続し、広く関心を持たせることができた。	今後も継続して指導していきたい。	A
○	【1学年】小論文に対する知識を深めさせる講演、模試を行った。	生徒の取り組み姿勢は予想以上に熱心で、真剣に考えて文章を書いていた。	A
○	【理科】3年生の補習やテスト前の向陽館補習を実施し、多様な進路へ対応できるよう取り組んだ。	基礎的な内容の定着がある程度は見られる。応用力、発想力を向上させるために、演習量を増やすなどの対応を検討したい。	B
○	【保健体育】体育実技の研究授業を通して、生徒が技術を身につけるための方法論を研究した。	研究授業での方法論を実際の授業で実践することができた。今後新しい方法を研究し実践していきたい。	B
○	【2学年】夏季休業中は全員参加の補習、全員対象の郊外模試を3回、定期テスト前の向陽館補習を5回実施し、学習への意欲向上に努めた。	目的意識を高く持って学習に取り組める生徒が増えてきている。	B
○	【3学年】各教科担当が鋭意努力した。		A
○	【進路指導】6月に進路研修会(1,2年)、キャリア教育セミナー(全学年)、10月に出張大学模擬講義を実施。進路意識の高揚に資した。	参加した当時の前向きな気持ちを以後も継続させ、有益な進路選択ができるようにすること。	B

II 生徒の自主活動を積極的に支援し、適切な助言・指導を行うことができたか。

	実施した具体的取り組み	成果と今後の課題・改善策・向上策	評価
○	【芸術】作品制作・発表を通じ、実践することができた。	今後も継続して指導していきたい。	A
○	【生徒会】向陽祭を地域行事の一つに、という考えの生徒に対し、町議会議員さんのコーナー設置や保育園を訪問しての広報活動を行った。	来年度も継続したい。	A
○	【保健体育】保健・体育の授業ともに、グループワークを増やし、グループでの話し合いの場を増やした。	生徒が自主的に活動することを増やすことができた。今後はいろいろな方法を選択できるような助言指導を行っていきたい。	B
○	【2学年】生徒会役員への参加をHRなどで呼びかけた。	生徒自治会役員への応募者がその定数を大きく超え、選ばれた生徒はその仕事に積極的に取り組んでいる。	B
○	【3学年】クラブ活動、委員会や向陽祭の活動を精一杯支援した。年間ほとんど休日が取れない教員もいた。	教員の体力や健康が心配される。	A

④ 家庭・地域との連携を図るとともに開かれた学校づくりに努める。

I 生徒が企画する地域連携事業を支援することができたか。

	実施した具体的取り組み	成果と今後の課題・改善策・向上策	評価
○	【芸術】3年生が2月に行う保育園実習で、各科目の特性を生かした交流の計画立案を助言指導できた。	年ごとに選択生徒の人数が変わり、画一的にいかないが、早めの計画が必要である。	B
○	【生徒会】「向陽生と遊ぼう」を企画運営した。(2A)	来年度も継続したい。	A

II 実践した教育活動の報告を通して、学校評議員の学校関係者評価や外部評価を受けたか。

	実施した具体的取り組み	成果と今後の課題・改善策・向上策	評価
○	【教務】学校評議員会等での各事業の報告、および、各事業で新聞・LCV等のメディアに取材・報道の依頼を行った。	報告や各メディアの報道で活動を広く知ってもらえたと思う。	B

III 保護者や地域住民を対象とした公開授業を積極的に実施したか。

	実施した具体的取り組み	成果と今後の課題・改善策・向上策	評価
○	【教務】4月のPTA総会の日程に合わせ、保護者・地域住民対象の授業参観・公開授業を行った。	新入生の保護者を中心に参加をいただいた。	B
○	【教務】8月の中学生体験入学の日程に合わせ、地域住民へも授業公開を実施した。	多くの中学生・保護者の方に参加し、向陽高校の教育活動を理解してもらえる機会となった。	B

IV 協力依頼のある地域連携事業をとおして地域との交流を深めることができたか。

	実施した具体的取り組み	成果と今後の課題・改善策・向上策	評価
○	【芸術】下諏訪町立図書館への作品展示、「すわくら」での作品展示等積極的に活動することができた。	今後も継続して指導していきたい。	A
○	【生徒会】三角八丁、リーダーズキャンプ、ハロウィンパレード、人権啓発活動、イルミネーション等、見事な交流を行った。	来年度も一般生徒に対してPRし、参加させていきたい。	A
○	【教務】体験入学に参加できなかった生徒向けに、10月に学校見学会を行った。	体験入学に引き続き参加した生徒も多く、より多くの中学生に学校を知ってもらう機会となった。	B
○	【教務】向陽坂通信の発行により、地元(諏訪地区)の中学校へ情報を発信した。	中学生の進路選択の参考にしてもらえたと思う。	B
○	【教務/教頭】本校のHPにWEB日記を開設し、日々の生徒の様子を発信。	通信や公開授業だけでは伝えることができない日々の活動を紹介できたと考える。	B

V 家庭との一層の連携とPTA活動の充実を図ることができたか。

	実施した具体的取り組み	成果と今後の課題・改善策・向上策	評価
○	【PTA】年間計画に基づき、各家庭に通知して、参加協力を募った。PTA会報と講演会以外は、例年通りに事業を実施できた。	PTA総会や地区懇談会はほぼ例年通りの参加であった。他の事業(環境整備作業やソフトバレーボール大会)の参加者数を増やしていきたい。	B
○	【2学年】進路通信、学級通信等を発行し、保護者への情報提供を行ってきた。	概ね好評であり、今後も継続していきたい。	B
○	【3学年】学年通信「光あれ」や各学級の通信の発行、日々の家庭との情報交換を行い、PTA行事にも積極的に参加した。		B